

9/3(火) の発表



報道発表資料の配付日時

9/3(火)

15時00分

発表項目 (行事名)	(週報) 腸管出血性大腸菌感染症の発生について (週報) 細菌性赤痢の発生について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施場所) 月 日 () 時 分～	発表者	
		発表場所	
概 要	<p>○詳細については別紙のとおり</p> <p>◆ (週報) 腸管出血性大腸菌感染症の発生について 千歳、紋別、帯広、中標津保健所 ……別紙1</p> <p>◆ (週報) 細菌性赤痢の発生について 帯広保健所 ……別紙2</p>		
参 考			

報道(取材) に当たっての お 願 い	<p>本公表は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第16条の規定に基づき、個人情報の保護に留意の上、感染症の発生状況等に関して必要な情報を公表するものです。 つきましては、報道に当たって、個人のプライバシー等の保護のため特段のご配慮をお願いします。</p>		
他のクラブ との関係	同時配布	(場所)	
	同時レク	千歳、紋別、帯広、中標津保健所	

担 当 (連絡先)	<p>保健福祉部健康安全局地域保健課感染症・特定疾患グループ (担当:角)</p> <p>電話 (代 表) 011-231-4111 (内線25-506)</p> <p>(ダイヤルイン) 011-204-5253</p>		
--------------	--	--	--

腸管出血性大腸菌感染症の発生について（週報）

令和元年（2019年）9月3日（火）15:00

北海道保健福祉部健康安全局地域保健課

TEL 011-231-4111(内線:25-506)

FAX 011-232-2013

令和元年（2019年）第35週（8月26日（月）～9月1日（日））に、道立保健所管内で腸管出血性大腸菌感染症（ペロ毒素産生性）が発生したのでお知らせします。

記

1 発生の概要

保健所	区分	性別等	発症日及び 主な症状	受診日	保健所 受理日	現在の状況	備考
千歳	患者 (O157)	男性 (70歳代)	8月23日(金) 下痢、腹痛、	8月24日 (土)	8月29日 (木)	入院していたが回復し、既に退院している。	—
紋別	患者 (O157)	男性 (幼児)	8月24日(土) 腹痛、水様性 下痢、血便	8月27日 (火)	8月29日 (木)	入院中であるが、 症状は快方に向か っている。	—
帯広	患者 (O157)	男性 (中学生)	8月20日(火) 下痢、血便	8月21日 (水)	8月26日 (月)	症状は快方に向か っている。(入院 はしていない。)	—
	無症状病原体 保有者 (O145)	男性 (中学生)	—	—	8月26日 (月)	—	8月23日(金)届出 の患者(男性(幼 児))の接触者
中標津	患者 (O157)	女性 (幼児)	8月25日(日) 腹痛、下痢、 血便	8月26日 (月)	8月30日 (金)	症状は快方に向か っている。(入院 はしていない。)	—

2 対応

- ・家族等の健康調査及び便検査
- ・患者及び家族等の喫食調査
- ・家庭等における手洗いの励行及び消毒等の清潔保持の指導

3 その他

この件については、本日15時00分、管轄保健所においても資料配付を行っています。
 <報道に当たっては、個人のプライバシー保護のため、特段の御配慮をお願いします。>

腸管出血性大腸菌感染症とは

概要：ペロ毒素を産生する大腸菌によって引き起こされる感染症であり、下痢、激しい腹痛、血便、発熱等が主な症状である。

また、病原体を保有していても症状がない場合もある。(無症状病原体保有者)

感染経路：汚染された食品や、感染者の便が口に入ることで感染する。(経口感染)

分類：感染症法では三類感染症に定められている。

潜伏期間：3～5日が多いが、1週間以上の場合もある。

予防策等：手洗いの徹底による二次感染の防止、食品の十分な加熱等。

【参考】腸管出血性大腸菌感染症の道内における発生状況（2019年） 9月1日（日）時点

区分/O抗原型	8	18	25	26	74	91	103	111	115	121	128	145	146	148	157	165	不明	合計
患者		1	1	11		1	2	3			1	4			53	1	5	83
無症状病原体保有者				7	1	7	1				3	4			8		6	37
計		1	1	18	1	8	3	3			4	8			61	1	11	120

(単位：人)

※ 札幌市、旭川市、函館市、小樽市分を含む

※ 全道の状況については、北海道感染症情報センターホームページにて公開しています。

(<http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/index.html>)

細菌性赤痢の発生について（週報）

令和元年（2019年）9月3日（火）15:00

北海道保健福祉部健康安全局地域保健課

TEL 011-231-4111（内線：25-506）

FAX 011-232-2013

令和元年（2019年）第35週（8月26日（月）～9月1日（日））に、帯広保健所管内で細菌性赤痢が発生したのでお知らせします。

記

- 1 発生の探知
8月31日（土）に、帯広保健所管内の医療機関から細菌性赤痢の患者1名が発生した旨、同保健所に届出があった。
- 2 発生の概要
帯広保健所管内の男性（幼児）1名（8月27日公表の患者（女性：30歳代）の家族）が8月28日（水）から発熱、下痢症状を呈し、同保健所管内の医療機関を受診し入院、検査及び治療を受けた。
- 3 現在の状況
9月3日（火）現在、既に退院し、症状は快方に向かっている。
- 4 経過
8月28日（水） 発熱、下痢症状の出現
医療機関を受診し入院、検査及び治療を実施
31日（土） 医療機関より細菌性赤痢の発生届を受理
- 5 対応
 - ・ 家族等の健康調査及び便検査
 - ・ 感染者及び家族等の喫食調査
 - ・ 家族等における手洗いの励行及び消毒等の清潔保持の指導
- 6 その他
この件については、本日15時00分、帯広保健所においても資料配付を行っています。

*報道に当たっては、個人のプライバシー等の保護のため、特段の御配慮をお願いします。

細菌性赤痢とは

区 分：赤痢菌による感染症であり、感染症法では三類感染症に定められている。

症 状：1～5日の潜伏期間の後に、発熱、下痢、腹痛が見られ、重い場合はテネスマス（しぶり腹；便意は強いがなかなか排便できないこと）、膿・粘血便（便に膿・粘液・血液が混じる）が見られることがある。

感染経路：汚染された食品や水などの摂取、細菌が付着した手や食器などを介した感染（経口感染）

予防方法：手洗い、食品の十分な加熱調理、不衛生な水や食品を口にしない

疫 学：世界中に広く見られる感染症で、特に衛生状態の悪い国に多く見られる。

【細菌性赤痢の発生状況（過去10年）】

令和元年（2019年）9月3日（速報値）

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
北海道	2	0	1	1	0	4	0	3	15	6
全 国	235	300	214	143	158	156	121	141	268	58

(単位：人)

*政令市（札幌市・函館市・小樽市・旭川市）及び本日発表分を含む。

*全道の発生状況については、北海道立衛生研究所北海道感染症情報センターホームページにて公開しています。
(<http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/index.html>)